

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年11月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691200309
法人名	医療法人 誠井会
事業所名	グループホーム陽だまり日輪荘
所在地	鹿児島県霧島市国分広瀬二丁目29-37 (電話) 0995-55-0700
自己評価作成日	令和5年10月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NP0さつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和 5年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは母体が脳外科・皮膚科を有する医療機関であり、小規模多機能ホーム、デイサービスセンター、サービス付き高齢者住宅、居宅介護支援事業所等が隣接しており、相互に連携・協力し緊急時の対応は迅速に行える体制となっています。

また、閑静な住宅街に位置しておりホール内からは四季折々の家庭菜園づくりが眺められ、季節の移り変わりを感じる事が出来ています。

開放的な環境づくりを心掛けており、入居者様たちがのびのびと過ごせるようにサポートしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、霧島市国分広瀬地区の、閑静な住宅街の一角に母体法人の医療機関や同法人のグループホーム、小規模多機能ホーム等に隣接して平成23年に開設している。周辺にはコンビニや薬局、マンション、個人住宅等が立ち並んでいるが、幹線道路から少し入っているため気になる騒音等は無く静かに暮らせる環境である。法人本部を中心に各事業所は情報の共有が図られ全体研修の実施や防災への強力体制、合同訓練等の体制を構築している。協力医療機関とは日常的に密に連携し、また24時間医療連携の体制も整えており、利用者や家族の安心に繋がっている。

地域密着型事業所として、開設以来、自治会に加入して地域との交流を大切に取り組んできている。コロナ禍のため現在は制限も多い状況下でもあるが、利用者は日常的に周辺の散歩時の挨拶や会話を楽しんだり園庭の野菜や草花を愛でている。家族や友人との面会の窓越しでの実施や利用者が作成した紙袋等を地域の商店に寄贈しており、地域住民から寄せられる高齢者福祉や認知症対応等の相談には専門性を生かして丁寧に助言するなどの交流を継続している。今後は感染状況を把握しながら地域との交流の機会を増やしたい意向である。

管理者及び職員は、法人の介護事業所共通の理念を常に意識し、また、年度目標も設定して、利用者の尊厳や人格、想いを大切にした利用者主体のケアに努めている。利用者毎の心身の特性や生活習慣等に配慮し、希望される趣味などの取り組みも個別に支援して生きがいのある暮らしとなるよう取り組んでいる。利用者及び家族からの意向や要望をケアの中や面会、電話、意見箱等で汲み取り、カンファレンス時に協議して改善を図っており、本調査のアンケートの結果からも家族の信頼度の高さが窺える。

食事は利用者にとって何よりの楽しみで関心も高いことと認識し、嗜好や形態、季節感、アレルギーの有無等に十分配慮しており、委託業者と密に連携しながら対応している。法人の幹部職員や管理栄養士、各事業所の管理者、委託業者等による給食委員会も開催して適切な給食に取り組んでおり、利用者のおやつ作りや行事食、郷土料理等、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	介護事業部全体での基本理念を掲げており、理念を下に、事業所計画や目標をたて実践に繋げています。玄関・ホール内・職員トイレ等に理念を掲示し意識付けに努めています。	利用者がその人らしく自宅のように寛いで過ごせるケアを法人の介護事業所共通の理念に掲げており、毎年度、理念に沿った目標(年2回振り返りを実施)も設定している。理念は玄関やホール、トイレなど目につきやすい場所に掲示すると共にネームプレートの裏面にも記載して周知を図り、日常的にケアの振り返りや意見交換等で理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会員となり地域との交流できるように図ってはいましたが、今後は感染状況を見つつ交流や社会参加に努めて行きたいです	感染症に配慮して地域との交流も自粛する状況下でも可能な限り取り組んでおり、家族や友人知人の面会の実施や回覧板の授受、雑巾を小学校に新聞紙で作成した袋を商店に寄贈して感謝されている。町内会に加入し災害発生時の協力体制も築いており、日頃の散歩時の挨拶や農産物の差し入れ、認知症や高齢者福祉に関する相談や施設見学には適切に対応するなど円滑な交流が図られている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	実践活動の中で雑巾づくり、新聞紙を活用した袋づくり等を行い定期的に地域の商店に買物袋として一般の方が利用できるように寄贈させていただく中で、認知症への理解や支援方法、活動内容を含め地域の人々に向けて発信し残存した能力を活かしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度から感染対策しつつ、運営推進会議を再開しております。参加して頂いた方からの意見を取り入れ、サービスの向上に活かしています。	コロナ禍に配慮して書面での会議が続いていたが、5類に移行したこともあり本年度からは家族や自治会長、市担当者、地域包括支援センター等が参加して定期的に開催している。利用者の状況や活動の内容、ヒヤリハット等の報告を行い、委員からは地域の情報やケアに関する質問、意見等が寄せられてサービスの向上に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当法人、介護部長を中心とし市町村担当者とは日頃から連絡を取り合い、事業所の実状やケアサービスの取り組みを積極的に伝え、協力関係を築くよう努めています。	市や地域包括支援センターの担当者とは日頃から密に連携して協力関係を築いており、介護保険の更新や各種制度の申請、報告に関すること、運営やケアに係る相談、感染症予防に関連する協議等を介護事業部を中心に実施し、指導や助言をもらっている。市主催の会議や研修にも出席してサービスの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心とし2カ月に1回、またはその都度に応じ、資料などを用い「禁止の対象となる具体的な行為」と逆に「身体拘束を行う行為の過程」を学び、身体拘束を行わない為の取り組みをできるように会議・討議し身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束や虐待をしないケアについては指針を整備し、計画的な研修を法人全体で実施して周知を図り、併せてカンファレンスや日頃のケアの中でも振り返りや意見交換を行って拘束の無いケアに取り組んでいる。身体拘束適正化を目的とした身体拘束廃止委員会も隔月毎に開催し、具体的な事例もあげながら認識を共有している。不適切な言動が見られた時は注意し合うなど日常的に改善に取り組んでおり、センサーの利用については家族の了解も得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を中心とし毎月の定例会前と2月に1回、資料等を用いて定期的に学ぶ機会を設けており、スタッフ間でのケア方法、声掛け等、その都度気づきを注意し合える関係性の構築、外部から講師を迎え法人全体で研修を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見継人制度について研修を行い学ぶ機会を設けているが活用の方が必要性的な方は現段階ではいらない。今後も研修・資料回覧等を行い、学ぶ機会を設けていきます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居・改定時に重要事項説明書等を用いて細かく説明を行い、疑問点についても丁寧に十分に説明し、説明後同意の上で契約しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、ご家族様の意見や想いを把握できるように、意見箱の設置と何時でも意見・要望が聞ける関係の構築、環境づくりに努めており、それらを運営に反映されています。	日頃から利用者や家族とは気軽に話せる関係の構築に努めている。利用者の思いは日常の会話や仕草等から汲み取り、家族の思いや意見は、面会や電話、意見箱、アンケートの実施、手紙等で把握に努め、写真やコメントを記載した「陽だまり日輪荘」の発行や毎月の請求書に写真やコメントを添えて利用者の状況を伝えている。出された意見要望等は全員で協議して運営やサービスの改善を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス・業務改善時に意見や提案が聞かれ、また、役職会議や法人介護部定例会もあり情報の収集や改善事項などに対しても意見の反映に繋げるように取り込んでいる。	管理者及び職員は自由に意見を言い合える良好な人間関係を構築しており、日頃の業務の中や申し送り、申し送りシートでの意見を活用したカンファレンス、個人面談等で意見や要望を出し合い、協議して改善を図っている。ケアに関する助言やスキルアップを図る研修を実施し、勤務シフトには有給休暇の取得、個人的事情にも配慮する等、働きやすい職場づくりに努めている。外部研修や資格取得時の経費については、法人による助成制度が整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自、年間のスキルアップ目標を提出し、それに沿って研修への参加等の提案、定期的面談の実施でスタッフ一人一人のモチベーションや、仕事への思いを聴取し、それぞれの向上心、目標達成できるように環境・条件の設備に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修では職員研修委員会を中心とし毎月の研修を行っています。外部研修への参加者は報告書の提出してもらい、職員全員に閲覧し研鑽に努める。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で他職種が集まる勉強会や研修などを開催しており、意識向上を目的に職員同士の交流も図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様・ご家族様より入居前の情報や意向を聴取し、不安なことや要望等を踏まえ本人様の安心とする環境・信頼関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケースにより、本人、家族の関係性は様々でありご家族様の抱えていられる介護への困っていること、不安・要望等を傾聴し些細な事でも話せる環境づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス意向を伺う中で本人・家族のニーズを見極め、他福祉・介護施設の説明を行いニーズに合った対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	傍らに寄り添い傾聴、共感する中で本人の生活歴や大切にしたいことを知りご本人様に学び暮らしを共に過ごし支え合う関係性に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策を徹底しアクリル板越しの面会・2時間までの外出・お便り・モニタリング郵送時、ご本人の思い、状態をお伝えし、また、それぞれの場面にあった環境づくり対応を心がけ、より良い関係を保たれるよう支援に努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策をしつつ、ご家族様とのドライブや面会ができるよう支援に努めております。	利用者毎の生活歴や馴染みに関する情報等を把握している。家族の面会は玄関の窓やパーテーション越しで実施し、希望に沿って周辺の散歩や訪問美容、通院、隣接の小規模多機能ホームやグループホームの利用者とのイベント、中・高生の体験学習や実習の受け入れ、家族との外出等に取り組み、遠方の家族との電話や手紙等の取り次ぎも行なうなど関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性等、考慮しつつ活動や日々の生活を把握し一人ひとりが孤立しないようまた、利用者同士が関わり合い、支え合えるよう環境提供に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご本人様・ご家族に差し支えないよう必要に応じて相談や支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いの尊重に努め困難な場合は日常の表情・動作から思いや意向を察し、又、ご家族様にお聞きし望む暮らしの実現に努めています。	重度化によりコミュニケーションが難しい利用者もいるが、日頃の関わりの中での会話や仕草、独自のサイン等から思いの汲み取りに努め、カンファレンス等で協議して、利用者主体の安全で生きがいのある暮らしとなるよう家族の意向も把握しながら取り組んでいる。利用者が希望する趣味（習字、縫い物、作品作り等）の取り組みも体調や残存能力に配慮しながら個別に支援し、それらの成果には評価や感謝の言葉も添えて自己肯定感が得られるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に、それまでのサービス事業所との連携やアセスメント、入居後の傾聴を通して情報把握に努め望む暮らしを提供できるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	活動やコミュニケーションを図る中で本人様のニーズの把握に努め、その人らしさの生活が維持できるよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等で問題点について検討し個別ケアに努めつつ提案・意見については試行。そのうえで再検討し現状に則したケアプラン作成をしています。	利用者や家族の意向を日頃の関わりの中で汲み取り、主治医の指示やモニタリング、カンファレンス時の職員の意見等を基に、習慣や趣味等にも配慮したライフサポートプランを作成して改善に努めている。利用者の状況変化時には実態に沿ったプランに変更し、利用者や家族の理解も得ながらケアしており、職員は実施状況を申し送りや業務日誌等で共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	認知症対応共同生活介護記録を活用し日々のケア・結果を記録し又、申し送りノートにも記入することで職員間での情報共有を図られ実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	理学療法士による動作能力の評価、機能維持の為に実施できる運動の情報を頂く等、必要に応じて関連事業所との連携を図りニーズに応じられるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政機関、他介護事業所等、の協力を頂きながら、ご指導、助言、交流を通して地域密着型施設としての役割が果たせるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様・ご家族の了解（承諾）を頂き主治医による診察（定期・緊急時）訪問診療にて対応、定期受診においては看護師同行受診対応しています。	本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しているが、殆どの利用者が協力医療機関を主治医としている。定期的な通院や訪問診療（看護師同行）が実施され、他科受診も家族と協力して取り組んでいる。協力医療機関には毎朝利用者の状況を報告すると共に24時間医療連携の体制も構築している。健康状態は家族にも密に報告して家族の安心や信頼に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の業務の中で状態変化、細かな事への気づきなど看護職員への報告を行い相談し、適切な受診、看護が受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報提供書による疾患、ADL、認知面における情報の提供や経過報告を行うことで医療機関での迅速で適切な治療が行えるための連携を取り、退院に向けては状態・状況に合わせ事前に経過把握・病院との連携を図り、退院時カンファにも参加し、状態の把握に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を定め事業所体制・本人・家族への説明を行い同意を得て支援、緊急時重度化などの段階に応じた対応、主治医、関係医療機関と連携を図りチーム支援に取り組んでいます。	重度化及び終末期に対する指針を整備し利用開始時に本人や家族に説明して同意を得ている。重度化した時点で家族の意向を十分に聞き取り、主治医や看護師と連携してホームで可能な限り希望に沿ったケアをチーム体制で取り組んでいる。本年度も1件の看取りを実施しており、看取り後は振り返りや意見交換を実施して次のケアに資している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災委員・保健衛生委員・リスクマネジメント委員会を中心に定期的に急変や事故発生時に備えて応急手当や初期対応を訓練しており日頃からの意識付け・知識の習得に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心として定期的な訓練を夜間の1人体制も想定して行い、同法人事業所との合同訓練の実施を行なっています。地域との協力体制は、自治会員となり自治会を通じ、協力体制を築いています。	年2回夜間想定を含む介護事業所合同の災害訓練を防災委員会が中心になって消防署の協力も得て実施し、災害時の注意や火災設備の取扱い等の研修も行っている。日頃から連絡網や避難経路の確認に努め、マスコミ等の災害情報をもとに意見交換も行うなど、防災への認識を共有し、災害時の地域との協力体制も構築している。。飲料水や食料品、介護用品等をホームで3日分、そのほかに法人本部でも備蓄している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの性格、認知症の症状の違いを理解し、日常の言葉遣いについても人格の尊重に留意し、不適切な言動がないよう職員間で共有した情報を下に、不適切な言動があった際には注意し合うようにしています。	利用者の人格や誇りを損ねる事の無いように研修の実施や日常的なケアの振り返り等で認識を共有し、利用者の生活歴や習慣等にも配慮しながら自己決定を尊重した支援に取り組んでいる。ホームはプライバシー保護に配慮した構造になっており、衣服の着脱や排泄、入浴時の声掛けは尊厳や羞恥心に十分配慮し、居室への入室時のノックや適切な声掛けも励行している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	思いを伝えられない利用者は言葉だけではなく、仕草や表情を読み取り、スタッフには気づきや気配りを大切にし、自己決定できるように働きかけしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせた起床や入床。食事の時間も本人のペースに合わせて調整させて頂いています。活動に入る時は内容説明し、ご希望の活動ができるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	好みに合わせた服装や身だしなみを心がけ、散髪も訪問美容を取り入れ、整容への意識を大切にしています。イベント等TP0に 応じて雰囲気づくりにも努めています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嗜好にあった物や季節行事食の提供を行い、また、旬の食材を使った おやつ作りを心がけ、食事を楽しんで頂けるよう努めています。	栄養バランス、季節感、疾病に伴う摂取制限等に配慮したメニューを、朝食はホームで調理し、昼・夕食は業者に委託している。給食委員会を毎月開催し季節の行事食や郷土料理、利用者のおやつ作り（月2回）、干し柿作り、園庭でのお茶等、食事が利用者の楽しみであることに配慮しながら工夫しているが、感染症に配慮して外食等は自粛中である。利用者もお盆拭き等を楽しみながら行い、口腔ケアもプランに沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適時、入居者様の体調の変化に応じて、医師と相談の下、食事や水分の量・栄養を考慮し提供を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアの実施と夕食後の洗浄剤での除菌等、清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄票の活用により排泄パターンを把握し、一人ひとり、日中と夜間の能力に合わせて対応しています。立位動作など、残存機能の維持・向上も意識しながら支援にあたっております。	利用者の自尊心や習慣、羞恥心等に配慮し、身体の状態や排泄パターンに応じた支援に取り組んでいる。可能な限りトイレでの排泄を支援し、夜間はポータブルトイレを使用する利用者もいる。介護用品やケアの方法をプランに反映させており、介護用品の消費量の減少等の改善が見られている。便秘の予防には食事や水分の摂取、運動量に配慮して自然排便に努め、状況によっては主治医の指示を貰っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて毎日の排便確認、把握し水分量、食事内容・量に注意し、便秘予防に努めており改善できない時はDrに報告、相談し頓服薬にて対応しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は週3回を基本に、体調や安全面に配慮しつつ、ご本人様の状態に合わせて時間の調整、湯温の調整で心地良く入浴できる環境づくりに努めています。	基本週3回、個浴での入浴を支援しているが、状況によってはシャワー浴で保清している。順番や温度、時間、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応しゆっくり楽しめるように支援しており、入浴後は水分補給や皮膚疾患の手当を支援している。入浴をためらう利用者には、時間の変更や声かけ等を工夫し清拭や足湯での対応も行うなど、利用者自身の意向を汲み取りながら保清に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の様子や体調に合わせて、休息の支援を行い、夜間についても巡視にて安心して休んでいただけてるように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の体調や排便、食事摂取量に変化が生じた場合は常時、医師に報告しています。服薬の際は誤薬防止の為、職員間で名前を読み上げダブルチェックを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の役割や楽しみごとを大事にしており、個別と集団のバランスを考え取り組んでいる。特技や生活歴から発揮できる場面を提供する機会を設けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、散歩などの機会を設け季節感を感じて頂けるよう行事計画を立てている。また、中庭にて外気浴・家庭菜園の参加を取り入れる事で脳の活性化を行っている。	感染予防に配慮しながら利用者の意向に沿って園庭や周辺の散歩を行い、家族との外出及び通院時には馴染みの街並みや景色を楽しんでいるが、コロナ禍に配慮して買い物や一時帰宅、墓参等は控えている。地域のイベントの殆どが中止され、ホームの外出行事も十分には実施できない状況が続いているため室内での体操やゲーム、昔の流行歌を楽しむなど、レクリエーションを工夫して気分転換を図っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりお金の所持はありませんがご本人様ご希望された場合、事業所立替えにて使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人や家族の希望があればいつでも電話を掛けたり、取り次いだり、手紙の読み書きを介助し、連絡が取れるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険物の除去や清掃により清潔で安全な環境づくりに努めています。また、室温・湿度調整・遮光など快適に過ごせるように配慮しています。壁には季節ごとの飾りつけや本人の作品を展示して居心地がよく楽しめる空間づくりを心がけています。	利用者が昼間の殆どを過ごすホールは余裕あるスペースが確保されて明るく、動線や利便性に配慮してテーブルやソファ等が設置されている。随所に活花や利用者の作品、写真等が飾られ、対面キッチンからは調理の音や臭いが伝わり、畳スペース、ウッドデッキも設けられて家庭的な雰囲気である。空調や清掃、整理整頓が徹底され手指消毒薬等も設置されており不快に感じる音や臭いもなく、利用者は四季を感じながら穏やかな日々を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望や状態に応じて、席を配慮したり、共通の話ができるよう、それぞれの生活歴などを配慮したお声掛けをし、会話づくりができるよう工夫しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅より使い慣れた家具、寝具を持ってこられており又、その都度本人様の要望を家族様に相談し居心地よく過ごして頂けるよう心がけています。	居室入口には戸惑うことの無いように写真と名札が同意を得て掲げてあり、居室内はフローリングに腰高窓、余裕ある広さで明るく、エアコン、ベッド、タンス、ナースコールが配置してある。利用者の意向を確認しながら清掃や整理整頓を支援し、利用者は自宅で愛用していた寝具、家族写真、小物等を持ち込み自身の作品も飾るなど、その人らしい居心地良く過ごせる環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様、ご家族様の承諾の下、居室ドアに名前・写真を掲げて本人様の部屋であることを理解し、できる限り自分のペースで移動・活動し自立した生活が安全に遅れるように工夫しています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
		○	3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない